

カリキュラムと教育方法

(2 単位)

専門 > 教育学部（全入学年度対象） > 基礎理解に関する科目等

1 年、2 年、3 年、4 年 前期

週間授業

遠藤 貴広 (endo@u-fukui.ac.jp, 0776-27-8964 (2518)、総合研究棟 V（教育系 1 号館）6 階)

■ナンバリングコード

05-TTC-101 教育学部 学校教育課程 / 教職科目 教育課程の意義〔1 年次レベル〕

■授業概要

本授業では現在の教育実践の問題を主に教育方法学とカリキュラム論の視点から議論する。実践的なメニューに取り組みつつも、実際の教育実践や教育改革の事例を理論的に検討する中で、受講生全員がカリキュラムと教育方法について明確な根拠を持って議論できるようになることを目指す。また、本授業では ICT 機器も積極的に活用し、受講生が実際に利用しながら、教師の ICT 活用指導力についても議論する。

■到達目標

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

また、教育の方法と技術、情報機器と教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

さらに、授業形態の特性上、次の点も受講者に求める。

○カリキュラムと教育方法に関して、明確な根拠を持って議論することができる。

○授業中に検討した事例を踏まえて、カリキュラムと教育方法について、自分の考えを所定の書式でレポートにまとめることができる。

○検討会での議論を踏まえて、レポートを改訂することができる。

■授業内容

本授業では、次のような内容を扱う。ただし、これらは授業全体を通して扱う内容の一覧であって、必ずしも各回の内容・順序を示すものではない。適宜、組み替え・再構成を行うことをお許しいただきたい。

カリキュラムとは何か：高校までの学習経験を振り返って

学習指導要領改訂をめぐる論点とその社会的背景

戦後日本における教育課程改革と教育方法論の史的展開

教育課程の思想と構造；社会における教育課程

授業をどうデザインするか；授業を構成する要素

教育課程編成をめぐる論点

資質・能力の育成と教育課程編成の課題

教育の道具・素材・環境

メディア状況の変容；教育技術をめぐる論点

すぐれた授業とは何か：実践事例の検討

特色ある学校の教育課程の事例検討

カリキュラム・マネジメントをめぐる論点

カリキュラムをどう評価するか

指導要録の変遷と学力評価の課題

この授業で何を学んだか：ポートフォリオの検討と最終レポートの構想

■授業形式

【授業形式】

講義、演習

■成績評価の方法

レポート集（事前レポート改訂版＋毎回の小レポート改訂版＋最終レポート改訂版）を基礎資料に、ポートフォリオ（本授業では WebClass を利用）を加味。

■教科書・参考書等

【教科書】

①a 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社、2018 年。

①b 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東山書房、2018 年。

①c 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編 一平成 30 年 7 月一』東洋館出版社、2019 年。

取得希望免許に合わせて a/b/c の中から選択して下さい。文科省サイトでダウンロードすることも可能です。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

②その他、授業中適宜指示する。

【参考書】

○田中耕治編『よくわかる教育課程（第 2 版）』ミネルヴァ書房、2018 年。

○石井英真『授業づくりの深め方―「よい授業」をデザインするための 5 つのツボ―』ミネルヴァ書房、2020 年。

○山内紀幸・本田伊克編『新時代の教育課程論』一藝社、2022 年。

○田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法（第 2 版）』有斐閣、2019 年。

○田中耕治・水原克敏・三石初男・西岡加名恵『新しい時代の教育課程（第 4 版）』有斐閣、2018 年。

○その他、授業中適宜指示する。

■その他注意事項等

○本授業では極力「一般論」は避け、教育実践の事実と教育方法学ならびにカリキュラム論の知見に根ざした、根拠ある考察を求めます。自分で問題を立て、探究し、書き、議論し、考え直し、書き直し、そして新たな問題を見つけていくことを求める、とてもハードな授業です（ほぼ毎回レポート課題があります）。

○専攻の異なる受講生数人のグループを基本に授業を進めます。授業中の新たな出会いも楽しんでください。

○本学部の教職課程へのスムーズな移行を図るために、この授業では「教職入門」や「協働学習支援プロジェクト I」「総合的な学習の時間と特別活動」と方法面で共通性を持たせ、科目間の連動を図ります。

○授業資料配信やレポート提出・閲覧は WebClass を通じて行います。ノートパソコン等のデバイスを授業に持参するとともに、大学でインターネット接続できる環境も整えておいてください（学生無線 LAN 申請等）。

■アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング科目

■授業形態

対面・オンライン併用授業ーリアルタイム・オンデマンド（資料配布）併用型

ICT 活用指導力養成の観点から、資料配付やレポート提出はすべてオンライン（WebClass 等を利用）で行う等、授業で ICT 機器を多用します。WiFi の使えるノートパソコンを授業に持参するようにしてください。パソコン持参できない方は、授業中ご相談ください。

■SDGs

4.質の高い教育をみんなに